

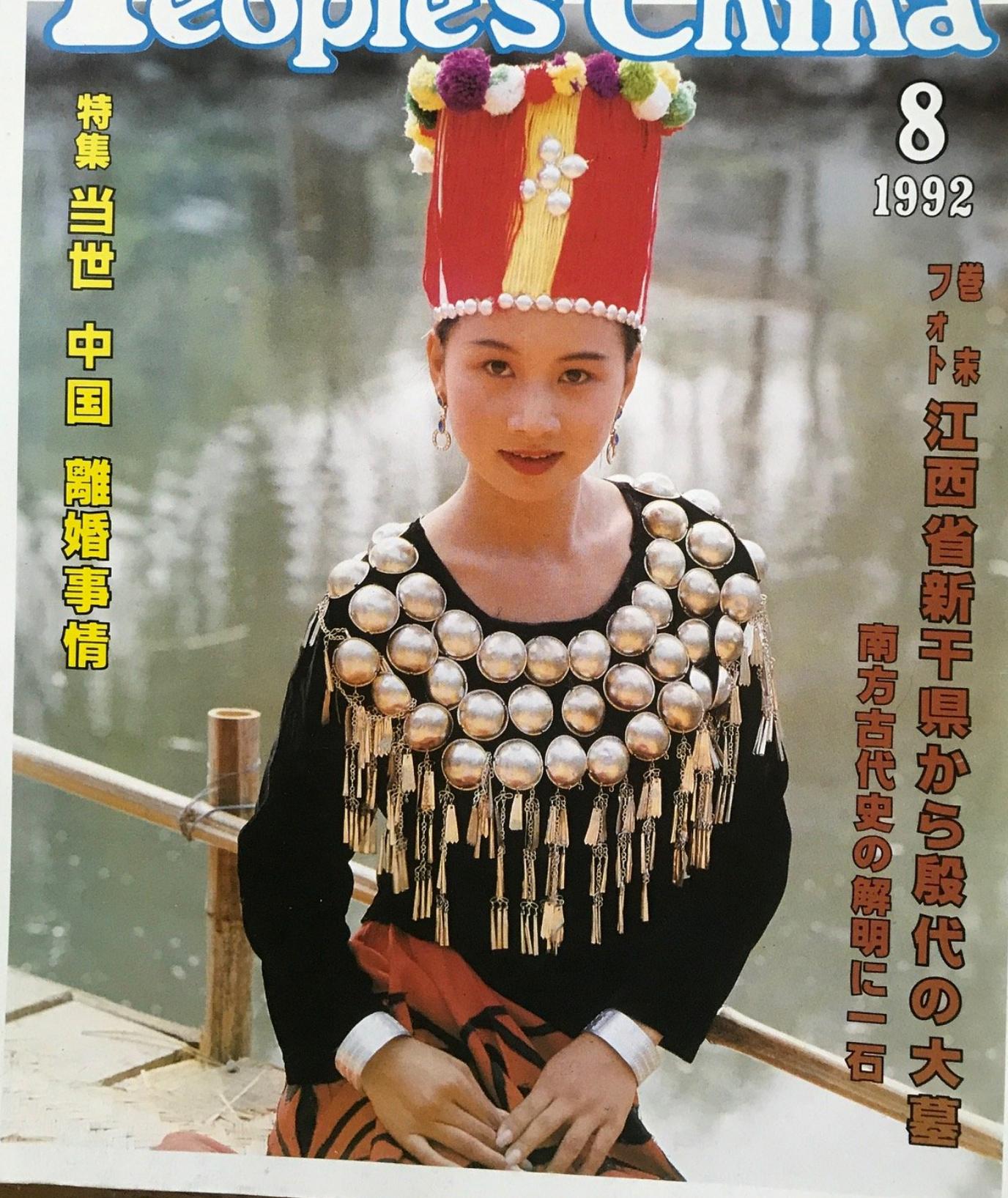
● 北京で出版する月刊総合雑誌

# 人民中国 People's China

8  
1992

特集 当世 中国 離婚事情

7巻 オト末 江西省新干県から殷代の  
大墓 南方古代史の解明に一石



一九九二年八月五日発行（毎月一回五日発行）第三輯 郵政特准掛號認可 通巻四七〇号

# コアラの国から パンダの国へ

JTB日本交通公社 鈴木 勝

中国で有名な作曲家・谷建芬女  
史から歌の特訓を受ける筆者



## 抱負と戸惑いと

まず、社内新聞で赴任の際に小生のメッセージが次のように掲載されましたので、あの頃の「抱負と戸惑い」を感じとっていただくため、コピーします。

〔北京発 89・3・1 ロイター共同〕C Iを実行したJTBはこの程、北京事務所長に中国語を全く解せない、中国旅行産業に未知数の人物を配置した。氏は長年オセアニア地区を担当し、81〜86年までシドニー駐在を勤めた。二百年の歴史の豪州から四千年の中国行きに戸惑いぎみとの信頼筋の情報である。緊急電話インタビューに「中国旅行産業に一つ位、何かを残したい」と答えている。

つくづく「大陸」に縁があるなど思っています。日本の二十一倍のオーストラリアに、そして今は二十六倍の中国に。しかしこれらの両大陸は気候、風土、国民性、習慣、人口etcに異なることが多く、敢えて共通項を探せば、「ただ広い地理的要素」や「未来の可能性が無限に広がっている」というような項目だろうかと思っています。

## 筆者紹介

1945年千葉県富山町に生まれる。1967年早稲田大学商学部を卒業し、JTB（日本交通公社）に入社。主に海外旅行・国際部門に従事。  
1981〜86年JTBシドニー支店次長として、オーストラリアに駐在。  
1989年からJTB北京事務所長として、中国に駐在中。

前略  
長くご無沙汰しておりますが、その後いかがお過ごしですか？

今頃の南半球のオーストラリアは秋から冬に向かいつつある頃でしょうね。こちら、北京は本格的な夏の到来が間近に迫っています。  
ところで、貴兄は日本からオーストラリアに移住し、既に十五年以上

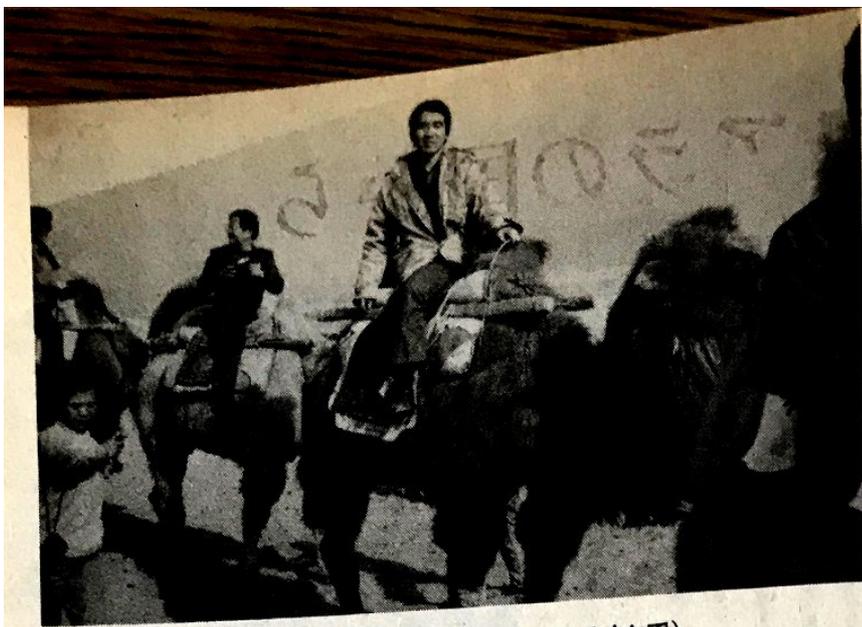
経つこととなりますね。シドニー駐在のあの頃はいろいろお世話になりました。

小生は五年近くのシドニー駐在の後、一度は東京の生活に戻りましたが、二年半後再び駐在で中国に飛んできました。北京生活、早や三年三ヶ月を経ました。今日は久しぶりに近況をと思い、ペンをとりました。

両国の共通項はもう一つあります。日本人に最も親しまれている動物のいる国なんです。ご存じの「コアラ」と「パンダ」です。コアラ君には親しく接する機会が多くあったのですが、パンダ君は数少なく、残念に思っています。何とか駐在中にパンダの故郷、四川省の山奥に行き、多くのパンダ君に挨拶したいと考えています。

若い観光客も増える

さて、中国赴任後の状況を仕事のこと絡めてご報告しましょう。社内報のメッセージのように、中国もそして中国語もわからない中で「中国を理解する早道は地方行脚しかない」と心に決め、その結果が下



今日は東に、明日は西に——（北京のカラオケで）。

のような状況となった次第です。日本や海外への出張時以外、ほとんど毎月、国内を動いた勘定になりま

す。昨年は必要性から「北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）」「モンゴル」にまで足を延ばしております。今年も旧ソ連のカザフ共和国などを計画しています。中国国内への出張や近隣諸国への旅はもちろん、中国駐在の任務を果たすためにはどうしても必要なことと思っています。

私たちが観光産業に従事する者として、一九九一年には日本から中国へ六十四万の人々が訪問したことは朗報です。これは天安門事件の前年八年の数字を超えて過去最高となっています。しかし、近隣の「韓国」「香港」「台湾」に百万人近くの渡航者がある状況と比較した場合、この広大な中国で「六十四万人」の数字は少ないと感じているのは、小生だけではないでしょう。

また、現在のこの中国への渡航者には片寄りがあります。ご存じのように渡航者の主流派は、熟年層と称される年配の人々です。現在、貴兄が住んでいるオーストラリアのように日本からのヤング層は本当に少ない状況です。また、オーストラリアはハネムーン客に関して近年、ハ

<1989年>

- 3月 北京赴任
- 4月 長春、瀋陽、鞍山、撫順、大連  
上海、無錫
- 5月 広州、香港
- 6月 (天安門事件)
- 8月~10月 (日本)
- 11月 天津
- 12月 山海関、秦皇島、北戴河  
黄山、上海、杭州

<1990年>

- 1月 西安
- 2月 成都、昆明、石林、桂林
- 3月 蘭州、武威、張掖、酒泉、敦煌  
嘉峪関、夏河(シルクロード)
- 4月 烏魯木齊(ウルムチ)、吐魯番  
(トルファン)
- 5月 廈門(アモイ)、泉州、香港
- 6月 上海、蘇州
- 8月 貴陽、黄果樹

西安、敦煌、陽関

- 10月 上海
- 12月 成都、拉薩(チベット)

<1991年>

- 1月 山海関、北戴河、上海、南京  
〔湾岸戦争勃発〕
- 2月 哈爾濱(ハルビン)
- 3月 上海、蘇州
- 4月 天津
- 5月 香港
- 6月 大連
- 7月 烏蘭巴托(ウランバートル)、戈壁砂漠(ゴビ)——モンゴル——
- 8月 平壤、開城、板門店  
大連
- 11月 上海、済南、曲阜(孔子の故郷)

<1992年>

- 1月 海口、三亚(海南島)
- 3月 西安
- 4月 洛陽、天津



中国・東北地方の農民？ ハルビン郊外で。

ワイを抜いて世界中で最もポピュラーな外国になっているようですが、中国にはまだまだです。しかし、この一、二年中国は変わりつつあります。

ハネムーンのカップルを見かけるようになりまし。また、街角で日本人の若い女性にも多く出会うようになりまし。

今までは若い人の訪中は「修学旅行」とか「青年洋上大学」とか大型グループが主で、それなりに効果のあるものです。しかし他方、最近の少数人数での中国への旅行も大いに歓迎しています。二、三人で北京の胡同（横町）や市場を巡ったり、若いカップルが人力車に乗ってエンジョイする風景が多くなりました。この

ような傾向は北京、上海を中心に確実に増加しています。その内、オーストラリアに追い付くのではないかと思っています。

### 自然体の友好関係へ

ところで、中国にやってきて「中日友好」の文字・言葉に——空港で、ホテルで、宴会で接する機会が多くなります。もちろん前任地のオーストラリアも「日豪親善FRIENDSHIP」が叫ばれていました。が、これほど多くはありません。いずれも大いに推進すべきことでもあります。

しかし、訪中する人々の中には「日中友好」を、声高に唱える人

が少なからずおり、内心、嫌悪感を感じているのも小生だけではないと思います。三々五々、訪中し、肩肘をはらず、街行く中国人との気軽な触れ合いができるようになってきた——自然体の相互理解・友好関係——最近の傾向が続けば、「日中友好」は文字に出さず、また声高に叫ばずとも推進されるのではないかと思っています。こんな旅行形態が可能のようにシステム作りをすることが小生の任務の一つだとも考えています。

ついでに、オーストラリアと違う現象をもう一つ。シドニーでもパーベキュー・パーティーが多くありましたが、当中国はそれ以上に「宴会」の多い国です。

「食」を大事にし、これを通して素晴らしい出会いを、そして友達を得てきました。日本からの訪中団も必ずといっていいほど催します。それなりに効果を発揮するようですが、時には首を傾げたくなる「歓迎宴」および「答礼宴」が見受けられます。短い滞在期間に二晩続きでそれもほとんど同じメンバーでの「宴」が催されるのを見るのも時間の浪費の感がします。

今、機会あればこんな提言をして

います。一晚の宴会を日中双方共催にして、あと一晚は北京の街に出て一般の人々の生活を味わってはどうか？ と……

### 中国語を歌で勉強

こちらあたりで、「北京チョンガ」生活を少し披露しましょう。

シドニーでは小生と貴兄の両ファミリーでよく集まりましたが、現在は息子三人が大学生、予備校生、高校生とカラフルな構成のため日本を離れられなくなった結果、一人生活を余儀なくされています。

出張の足跡表でお分りのように、毎日「寂しさ」を感じている状況ではありません。しかし、「一人生活」に対する中国の友達の同情の念はたいへんなもの。例えば、春節のような長期の休みの際は「休み中はどうする？」「餃子を食べに来ませんか？」……いろいろな誘いで嬉しい悲鳴をあげることが毎年の例となっています。小生はそんなに苦に感じていないのですが、食事は大勢で、という習慣がある中国では、一人でボンボン食べているのは本当に寂しく映るんでしょうね。こんなところにも国民性・習慣の違いを感じ

じています。

中国に來た頃は中国語がしゃべれず、苦勞の連続でしたが最近、やっと意思が通じる段階になってきました。生來のものぐさで、単に会話を習うのでは長続きせず、半年前から試みは、中国の歌」とともに。

「中国歌100曲」〜カラオケで少なくとも二人で堂々と歌える段階に挑戦、ただ今、七十二曲目を極秘の手帳にエントリー済み。半年前には一曲も歌えなかったことを思うと隔世の感がします。テープをどんどん購入し、気に入った歌の歌詞をコピーし、辞書で発音や意味を調べた

り、涙ぐましい努力をしています。

最新購入のテープはリバイバル・ヒット・ソングの「紅太陽」です。

文化大革命の頃に愛唱された歌ばかりの毛沢東賛歌集で、発売以来、爆発的な売れ行きです。貴兄はご存じないと思いますので少し紹介しましょう。(現代調にアレンジした軽

が残念ですが……)

太陽最紅、毛主席最親、

你的光輝思想永遠照我心。

太陽最紅、毛主席最親、

你的光輝思想永遠指航程。

(太陽は最も赤く、毛主席は最も親

しく、輝かしい思想が永遠に私の心を照らす。太陽は最も赤く、毛主席は最も親しく、輝かしい思想が永遠に方向を指し示す)

### ——和訳・自己流——

中国の歌を習い始めてから中国語会話の進歩が見えてきたのも、まんなら自分の意図が違った方法ではなかったと考えています。

まだまだ、いろいろ近況を報告したいのですが、紙面も尽きてきましたのでこの辺で終わりますが、あと一、二年の間北京にいると思います。四千年の中国を理解するには二、三年ではとうてい無理です。

オーストラリア滞在五年近くの総決算のつもりで、「コアラの国の法律あれこれ」一駐在員の法律雑誌「帳」を出版しましたが、北京を去る際には「パンダの国の×××」一駐在員の生活記録」を出版できる位に中国をマスターしたいと思っています。

最後に貴兄のシドニーでの活躍をお祈りします。再見！

追伸 北京においてになったら、シドニーと違った「北京式カラオケ」(「卡拉OK」と書きます)にご案内します。その時には百曲目の中国ソングをご披露します。

# 健康に役立つ 中国医報

月刊

(昭和五十四年十一月十九日第三種郵便物認可)

日本中国温灸療法普及会  
中国医報社  
編集発行人 坂本敬四郎

中国の伝統医療を日々の生活に役立てる為家庭で手軽に出来る健康法や、中国医療の紹介、漢方薬、針灸治療、マッサージ治療、中国無錫で行なわれている日本からの療養者の実際を通じて中国医療の真髄を知る。中国の食品による健康管理、インタビュー記事、旅行地、産物の紹介、健康を通じて中国を知り生活に役立てる。楽しく読んで日々の生活に役立てる。(切手200円お送り下さい。見本紙さし上げます。)

購読料：送料共 1年 1,800円  
2年 3,500円  
3年 5,000円

郵便口座番号：宇都宮1-13978  
加入者名：中国医報社

〒375 群馬県藤岡市立石615-1 ☎0274-42-2057  
〒101 東京都千代田区内神田1-15-12 ☎03-3295-1197